

# 第12回 校外教授

佐伯 文子 (大中高19期)

平成22年11月11日(木)、東京山桜会会員は、汐入桟橋からタクシーで三笠公園の一角にある日露戦争の歴史の重みを唯一の証言者として公開保存されている記念艦三笠に、24名集まりました。司馬遼太郎の『坂の上の雲』で今話題になっている秋山兄弟、兄は陸軍秋山好古、弟は海軍秋山真之、親友正岡子規(俳句)の有名な3人の活躍していく物語の中で、戦艦三笠がでてきます。グレイの大きな全長131.67m、マストの高さ50mで艦首に菊の紋章(カーブにあわせて三面を一つにして木で彫刻され金で塗られている)がありカッコよかったです。「世界に残っている最も古い鋼鉄戦艦」としてイギリスの世界船舶基金財団から「海軍遺産賞」も授与されています。日本の「三笠」は、英国のヴィクトリー、米国のコンステーションとともに世界三大記念艦であり、日露戦争(1904年～1905年)において東郷平八郎司令長官が乗艦し連合艦隊の旗艦として活躍しロシアのバルチック艦隊を対馬沖に邀撃して世界的に有名な日本海海戦をして日本が大勝利し、アジア諸民族の自覚と独立を促し、世界史の転換期を作りました。バルチック艦隊38隻を撃滅する功績をたてて日本の独立と安全を確保しその後の日本が繁栄する基礎を作りました。この遺功を残して逃げた三笠は、日本民族の誇りです。「敵艦見ユコノ警報二接シ、連合艦隊八直チニ出動、之ヲ撃滅セントス。本日天気晴朗ナレドモ波高シ。」5月27日早朝連合艦隊に全てにいきわたった。5月27日午後1時55分マストにZ旗を掲げて、海戦開始。「皇國ノ興廃此ノ一戦ニアリ。各員一層奮勵努力セヨ。」2時5分敵との距離8kmにおいてT字作戦(敵前大回頭)で、有名な東郷ターンをした。左12点140度正面転換である。すごい作戦を授業で追手前中高の時習ったのを覚えています。東郷平八郎のこの言葉は、戦争を知らない私達でも「何やらすごい頑張らなあかん。」と直感する言葉の呼びかけで、すごく印象に残っています。先生が、私の後の男子に「今日は日本は戦争はしない国になっているが、もし戦争にどうしてもなったら君は、どうしますか?」その男子は、おとなしい存在感がうすい子でウンともスンとも言わない黙っているヒョロツとした子で、10秒ぐらい沈黙だったのが、ヒョロツと立っただけの静かに「その時は戦います。」とハッキリ言ったので、かたずをのんで聞いてました。年とった先生、「それを聞いて安心した。」とほほえんだのを覚えています。今どないしているかわからないけれど、艦内の展示品を見たり艦首の本物の菊紋章や舵輪があり、資料を見たり、士官室、艦長室、司令長官官室には、30cmぐらいの黒と金でできた東郷の遺髪が置かれてあり、甲板の上ののぼると当時司令長官東郷平八郎大将が立った所、作戦参謀秋山真之中佐、参謀長加藤友三郎少将、艦長伊地知彦次郎大佐の立った足元に名前が貼ってあり、分かりやすくしてあり、方位計や8つの持ち手がある舵輪や上の声を音響機みたいなパイプで下に声を通すのもありました。先輩の小林氏が、「追手門の小学部の教室の床下は、このデッキのこれと同じのだったよね。」両足をトントンと足踏みしたりして感触を確かめて、「やっぱり、そうだよ。この床下だよ。」案内の人が、「堅いチークでできています。」とほほえみながら言われました。司令長官専用のスタンウオーク(回廊)など歩きました。三笠は復元されて今年の5月27日で50周年だそうです。この勝利を神助、天佑と見る謙虚さがあったが、懸命に職責を果たし戦勝に大いに貢献した人の功績が看過され軽視され、教訓を正しく認識反省し同じ過ちを繰り返さないことが大切だったのが後世の海軍軍人はそのようにせず太平洋戦争に敗れました。日本国民の自重精神は敗戦によって崩れ他国の武力に屈した日本人は、誇りを失い心の友を失って退廃におちいりました。道徳的努力は無意味なものとしてあざける思想がおき、日本及び日本人を侮りあざける風潮がおきました。自尊自重の精神のない国民が、他国人の侮りを受けますのは当然ですが、みずから重んずる精神のないものは、他国民のみずから重んずる精神をも理解できないので、他国民に対し、弱少の者に不遜となり、強大な者に卑屈になります。一国民が正しい自重の精神を堅持することは、ひとり自国のために他国の侮りを防ぐのみでなく、世界の国民と国民、国と国との関係を正常で健全なものにする上において必要なことです。自尊自重の精神なき国民は、すべての高い精神活動の落伍者にならざるをえないです。最近の日本人は、日本国憲法と公序良俗で生きていくことを知っている人が少なくなってきて、日本人が慢心して傲慢になりすぎて本当は世界知らずで世間も知らないのに「すべてを知っている。」ように思っている人が多く、世界知らずで日本の外交がヘタなのが、はなはだしいです。国運をかけて戦った日本の活躍した過去にもっと誇りをもってほしいことと日本の国の事に、古い日本のことを念頭におき関心をもち、倫理的にエリートな人がたくさん増えてほしいです。マッカーサーが言った言葉で、「日本人は、12才だ。」外国から日本は小学生高学年に思われていたのである。自分自身との契約があるかどうか、パワーオバランスを持って個人個人の自覚が

ある日本人が多く育ちもって大人になり外交や内交が上手にできる日本になってほしいです。自国の日本を誇りに思っ生きていき世界に通用する日本、発言力のある日本になってほしい。もっと日本は、知識や外交、日本を背負っているという自覚をもつべきです。Z旗は今日も翻っています。国民として自尊自重の心を新たに持つべきです。国際的日本人世界に通用する日本人が増えているのはいいです。①知育、②徳育、③体育、④食育の教育を土台として基本からしっかりと小さい時から倫理的エリートを育成して「世界に通用する大人の日本。」と言われることを望みます。

マイクロバスで、東京山桜会会員は海軍提督達がよく集った料亭「小松」に行きました。建物はその当時のまま保存されていて玄関に入って壁にはコートを掛けるフックが昔のまま漢字で数字がかかれて20cmずつ多くかけられるようにズラッとあり、一階の洋間の応接室に通され海軍将校達の写真、舵輪、地図、楯、よせ書き、海軍にちなんだ置き物があり、とてもゆったりと落ちつきソファや椅子でお茶を頂きつろぎ、二階の大広間へ通されました。手すりも肌ざわりがよく感触が素敵でした。赤いじゅうたんを時代を感じさせる廊下をゆったりと歩き、右側に能舞台の鏡板のように白壁に大木の緑の松と太陽が描かれ右の側壁に海原と古木と岩左の側壁に海原と岩石が描かれて舞台と大広間の上のしきりに12個の白地に赤、白地に緑の紙でできた提ちんがついてあって当時をしのばしてあり、舞台には、緑の松を背景に5つの大きな掛軸がかけてあり東郷平八郎、上村彦之丞、鈴木貴太郎、米内光政、山本五十六の達筆な揮毫が精悍な感じで並んでいました。特別に展示して頂き、見事な字に迫力を感じ圧倒されました。「こんなにまがいもなく一気に書けるもんだなあ。」明日戦ってどうなるかわからない身の上の直面している豪快さも感じられ気迫がすごい字に表われています。金屏風の前で、三代目女将が説明してください皆様見に来ておられました。両サイドには金色に「松寿」「莫(無)憂存(有)福」「迎春」や竹の水墨画など横長の額がござられ豪快で風格と気品に満ちゆたりつろげる空間に包まれました。床の間はたつぷりと広く紫檀の大木の右の床柱が直径70～80cmで下から上までつらぬいたシボ(縦にシワがずっとある)がありデコボコのこぶしがついている見事な紫檀で圧感です。左の床柱は直径30cmぐらいのまん中で段がいにしてありスカッとさせてありました。大きな水墨の風景画とコイに仙人がのった置き物や大きい壺に花が生けられ南極観測船がもち帰った菊花石があり昔はピカピカと光っていたそうです。船の模型の置き物、日本人形や紫檀で象の牙のように10頭ぐらい象がつらな彫刻した置き物がありました。甲谷先輩が、「私こんな素晴らしい床柱見たことがない。紫檀でこんなに太いのは、まあとても珍しい素晴らしいわね。」皆様「すごいね。」「素晴らしい。」と感心してうなづいたり見とれてました。おいしいお料理が次から次へと出てきました。舌鼓を打ちながら海軍将校達もこのように味わっていたのかと光栄でした。精神的に落ちついてくらくら開放的な空間そして空気がとてもきれいでした。新鮮な空気でした。萩原氏が女将に「大先輩の前田卯一郎氏は若き海上自衛隊南極観測艦「富士」乗組員時代小松の女将からせんすを頂いたそうです。今でも大事にしているそうです。「どうぞよろしく」とのことを女将に伝えて下さい。」とことづかてきました。」と話されました。萩原氏「海軍と陸軍では、お給料はどちらが上ですか?」「それは海軍です。格も上でした。」とのこと。シャキーンと背すじがのびた女将でした。舌鼓をうちおいしい料理に話に花が咲き、女将といっしょに全員で写真をとりました。光栄でした。小松を出て出口近くに竹でできたしきりの塀から夏みかんの実が深緑の葉っぱから2個ぶらさがって、食べたらいよいよ、印象的でした。「また来たい。」と思いました。マイクロバスで、横須賀美術館に行き、そこは道路をへだたて芝生の丘の上の上に立って海に面していました。絵画や谷内六郎の絵を見ました。昭和を思い出す絵、童謡を思い出すつかい絵がいっぱいでした。思わず「週間新潮は、明日発売でえす!!」とテレビで宣伝していたのがよみがえり思わず笑ってしまいました。それを見た後カフェで皆様コーヒーや紅茶をのみながら大きな壁一面ガラスからの眺めは、一枚の大きな絵のように青い空と青い海に大きな貨物船がオモチャのようにゆったりと横ぎっていくのを味わいながらとても私達をいやしてくれました。今日一日、素晴らしい貴重な校外教授を受けることができとても充実し横須賀駅までマイクロバスで行き東京山桜会会員は、各自幸せにみだされた家路にたりつくのでありました。

## 「校外教授」次回のお知らせ

日 時：2011年(平成23年)11月12日(土)  
12:00～15:30まで

場 所：「船の科学館」(東京都品川区東八潮3-1)

【アクセス/新交通「ゆりかもめ」新橋駅から17分「船の科学館駅」下車】

概 要：昼食/12:00～13:30 (場所は検討中)  
見学/13:30～15:30 (「船の科学館」)  
解散/15:30

連絡先：TEL/FAX 049-283-7343 (東京山桜階事務局：荒川)

